令和８年度山口県中学校キャリア教育研究大会（宇部大会）
大会主題「コミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かしたキャリア教育の充実」

山口県中学校教育研究会キャリア教育部長　宇部市立常盤中学校長　佐々木　英樹

１　はじめに

山口県では「やまぐちPRIDE」の醸成を基盤としたキャリア教育の推進が示され、コミュニティ・スクールを生かした家庭・地域・大学・企業等との連携・協働による教育活動の充実が求められている。そこで本大会では、標記大会主題を掲げ、各校における地域と連携した取組について情報共有を行い、その成果と課題について研究協議を深めることとした。

２　概要

(1) 開催日・会場　　令和８年１１月２０日（金）　宇部市立常盤中学校

(2) 公開授業　　第２学年総合的な学習の時間「ときわ学」『宇部市への提案』

常盤中学校では、地域資源や行政機関との連携を生かした探究的な学習を進めており、生徒は宇部市役所職員による出前授業等を通して地域の現状や課題について学び、自らテーマを設定して探究活動を行ってきた。

授業では、各グループが地域課題の解決に向けた提案を発表し、参観者や仲間との対話を通して考えを深めた。生徒たちは地域社会の一員として課題を自分事として捉え、多様な立場の人々と協働しながらよりよい地域づくりについて考える姿を見せていた。

(3) 研究発表・講演

研究発表では、常盤中学校の「ときわ学」、藤山中学校の「ヤング自治会」、厚東川中学校の「地区児童生徒会」の取組など、地域と共に学び、生徒の社会参画意識の向上を目指した実践について発表した。それぞれの特色ある取組を通して、生徒のキャリア発達を支える実践が報告された。



また、藤田　晃之教授（筑波大学人間系）を講師として迎え、「キャリア教育の更なる充実に向けて」と題した講演を実施した。これからの社会において求められる資質・能力や、地域との連携を生かしたキャリア教育の方向性について、多くの示唆をいただくことができた。

３　おわりに

本大会を通して、コミュニティ・スクールの仕組みを生かしたキャリア教育の重要性を改めて確認することができた。地域の思いや願いに触れながら学ぶことは、生徒が自己の在り方や生き方について考え、主体的に社会参画しようとする態度を育むことにつながる。

また、キャリア教育を推進する上では、各学習活動におけるガイダンスと振り返りを充実させ、生徒が自己の成長を実感できるようにすることが重要であることを再認識した。今後も、地域と共に学ぶ教育活動の充実を図り、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育を推進していきたい。